

# 日本ESD学会第一回大会（2018年8月18日、19日）

# 発表プログラム

8月18日（土）	(A)104教室 (63名)	(B)105教室 (63名)	(C)203教室 (55名)	(D)204教室 (55名)	(E)208教室 (55名)	(F)209教室 (55名)
-12:00	評議員会					
12:00-13:00	受付					
13:00-13:10	開会行事（大講義室）					
13:10-13:20	移動					
司会者（敬称略）	岡本弥彦	永田佳之	安田昌則	中澤静男	中西一成	宮崎冴子
13:20-13:50	市瀬智紀（宮城教育大学） 「ESDの効果と成果に関する質問紙調査（2014-2017）の結果に関する一考察」	細谷邦弘（横浜市立幸ヶ谷小学校） 「ホールスクールアプローチ実践校における教職員のESDの認識過程-修正版グラウンデッドセオリーアプローチの分析を用いて-」	坂口一美（箕面ユネスコ協会） 「地域と学校が協働するECDの実践」	影浦亮平（京都外国語大学） 「倫理学教育とESD」	河本大地（奈良教育大学） 「持続可能な未来に向けた『へき地教育』の課題と可能性」	ト部匡司（広島市立大学） 「キャリア教育におけるESDの可能性」
13:50-14:20	山本香織・田村亮（大阪市立北津守小学校） 「ESDと学習指導との関連性を意識付けた実践的研究-学びの意義について考える-」	稲井雅大（兵庫教育大学大学院（大阪市立中大江小学校）） 「共生・活用型自然環境への校内整備に伴う児童の意識変化」	佐々木哲弥（杉並区立西田小学校） 「小学校における地域連携の取り組み」	河野晋也（奈良教育大学附属小学校） 「ESD実践における省察性の育成-構成主義的学習論を援用した小学校社会科の実践を通して-」	畑島英史（長崎県対馬市立仁田小学校） 「島嶼地域の人口減社会での教育の特徴」	香戸美智子（京都外国語大学） 「ESDと外国語系大学の可能性をさぐる」
14:20-14:50	金基成（山梨大学） 「"Sustainable development"における意味の競合とそのESDへの示唆」	中村隆行（福島工業高等専門学校） 「アジアにおけるサステナブルキャンパスに係るネットワーク構築の経緯と今後の展望」	谷垣徹・桑綾香（奈良教育大学大学院教育学研究科） ・仲村幸奈・丸本まりな・下原舞・櫛乃里花（奈良教育大学教育学部） 「ならまちを活用したESD活動の実践」	鈴木隆弘（高千穂大学） 「社会科・公民科におけるESD-現行・新学習指導要領の検討を通して-」	後藤田洋介（大阪成蹊大学）、桑綾香（奈良教育大学大学院）、中澤静男（奈良教育大学） 「学生主体の宿泊型ESD活動における学生の学びの分析」	
14:50-15:00	移動					
15:00-15:30	研究発表（ポスター）コアタイム（ポスターの掲示は18日朝~19日まで可能です）					
15:30-15:35	移動					
司会者（敬称略）	河本大地	浅井孝司	岩本渉	北村恭康	大塚明	石丸哲史
15:35-16:05	吉田剛（宮城教育大学） 「我が国の地理教育研究にみられるESD」	坂本句（法政大） 「ビデオレターを用いた福島とネパールの小学校間交流実践の試み」	川井徳子（（公社）ソーシャル・サイエンス・ラボ） 「日本庭園の美学的価値について」	光橋翠（お茶の水女子大学大学院） 「幼児教育におけるESDの国際的動向~保育のナショナル・カリキュラムの国際比較を通して~」	島俊彦（大和郡山市立郡山西小学校） 「川上村から学ぶ持続可能な水の流し方-小学校4年生総合的な学習の時間の実践による考察-」	関隆晴（大阪教育大学） 「ESDにおける教員養成-『地域連携学校教育入門~現代社会を生きる~』の授業実践を通して-」
16:05-16:35	井手弘人（長崎大学） 「『地域知』の可視化による『場』（place）概念の発見・共有への取り組み-鹿児島県垂水市をフィールドとして-」	高橋尚也（日本科学未来館） 「スウェーデンにおける持続可能社会に向けた環境教育の科学リテラシーへの効果について-日本の幼稚園から高校での実践事例より-」	島津礼子（広島大学） 「アイヌの口承文芸に見られる持続可能性」	佐伯美保（環境ネットワーク「虹」） 「地域の緑地での森のムッレ教室等を通じたESDの推進」	下山田隆（佐賀市立忠孝中学校） 「森から海へつながる中学校ESDプログラム開発における職場体験の導入」	田村和之（鳴門教育大学） 「教員養成課程における自然体験活動：イベントの企画・実施を通して」
16:35-17:05	須田玲子（早稲田大学大学院教育学研究科） 「持続可能社会に向けた伝承文化と環境教育の融合の実践」	岩本泰（東海大学教養学部） 「フェアトレードから広がる学び-東海大学SOHUMアースミュージアムプロジェクト実践より」	田中俊行（（公社）ソーシャル・サイエンス・ラボ） 「日本伝統文化におけるESDの可能性~いけばなの見地からの考察~」	桑田久美子（森のムッレ園） 「幼児期からのESD、森のムッレ園はぼの取組み」	中澤静男（奈良教育大学） 「世界農業遺産をテーマとしたESD教材開発」	高垣晴夫（和歌山ユネスコ協会） ・小野田真弓（熊野古道を世界遺産に登録するプロジェクト準備会） 「世界遺産の道歩く『ピースウォーク』によるESD活動とSDGsの推進について」
17:05-17:40	移動					
17:40-19:40	懇親会（大学生協）					

8月19日(日)	102教室 (162名)	(A)104教室 (63名)	(B)105教室 (63名)	(C)203教室 (55名)	(D)204教室 (55名)	(E)208教室 (55名)	209教室 (55名)
8:30-9:00	受付						
司会者(敬称略)		市瀬智紀	柴尾智子	大西浩明	工藤由貴子	湯本浩之	
9:00-9:30		永田佳之(聖心女子大学)「日本のESDの課題 - 国際宣言及び海外の実践からのクリティカル・レビュー」	長岡素彦(一社)地域連携プラットフォーム「ESDとしてのSDGsワークショップ-目的別のワークショップ『持続可能な未来』」	富山敦史(常葉大学)・松岡敬興(山口大学)「ESDからみた戦後初期コア・カリキュラム」	塩飽隆子(一財)ジャパンアートマイル「未来を創る力を育てる国際協働学習」	浅井孝司(ヒューマンアカデミー株式会社)「市民活動によるESD-板橋の事例から」	
9:30-10:00		岡本弥彦(岡山理科大学)「ESDにおいて育成すべき資質・能力-資質・能力の三つの柱に基づいて」	神田みゆき(熊本市立出水南中学校)「SDGs達成のためのESDの取組」	森田育志(神戸大学附属中等教育学校)「『主体的・対話的で深い学び』の実現を目指したESDの授業実践」	岩見理華・軽尾弥々(神戸大学附属中等教育学校)「高等学校英語授業における課題解決型学習の実践と評価-『世界一大きな授業2018』への参加を通して」	上村有里(NPO法人とよなかESDネットワーク)「食を通じて未来の自分をデザインする~生きるための料理教室~」	
10:00-10:30		小林亮(玉川大学教育学部)「ユネスコの地球市民教育(GCED)はどのような能力の育成をめざしているのか? -ユネスコ価値教育の文脈におけるESDとの接点と統合可能性について」	池田満之(中国学園大学)「ESD・SDGsの可視化に関する研究」	中垣篤志・森田育志・米原あき(神戸大学附属中等教育学校)「ESDの授業実践における教科間連携のあり方-『生物多様性』の授業実践を事例に」	松田剛史(北海道大学大学院)「ESDの視点からみた21世紀の国際博覧会とその意味」	宮崎冴子(一社)社会貢献推進国際機構キャリア開発研究所「ESDの視点からみる防災・減災教育」	
10:30-11:00		神田和可子(聖心女子大学)「ESDの寛容的学習」	藤本勇二(武庫川女子大学)「総合的な学習の時間における身近な課題解決からSDGsへ-小学校5年生『北六米っこ物語』の実践より」	木下智実(所沢市立宮前小学校)「ESDを一単元学習の中で実践するための手立ての研究」	三宅博之(北九州市立大学法学部)「RCE北九州(日本)とRCEトンヨン・RCEインジェ(韓国)間の国際交流を通して得られたESDの成果と課題」	渋谷恵(明治学院大学心理学部)「持続可能な開発のための教育(ESD)における『地球層』活用の可能性」	
11:00-11:10	移動						
11:10-12:30	総会(101教室)→総会后ワークショップ開催者は101教室で打ち合わせ						
12:30-13:30	ランチタイム(12:30-13:15発表会場にて出展者のアピールタイム)						
13:30-15:30	ワークショップ(会場は、参加申し込みの状況を見て決定いたします。)						
15:30-15:40	移動						
15:40-16:20	ワークショップ報告会・閉会行事(101教室)						